

- 資料編 -

高齢者等の活動等に関するアンケート

○高齢者の活動等に関するアンケート

【あいちシルバーカレッジ受講者へのアンケート】

アンケート実施期間：平成27年6月24日～7月9日までの間の開校日

アンケート実施方法：シルバーカレッジの各会場にて、受講者にアンケートを配布し、
その場で回収する方法により実施

アンケート回収者：534名（豊橋会場はじめ8会場）

(年齢内訳)

60～64歳：42名

65～69歳：231名

70～74歳：165名

75～79歳：68名

80～84歳：10名

年齢不詳：18名

(性別内訳)

男性：216名

女性：302名

不詳：16名

534名

534名（平均69.7歳）

【老人クラブ加入者へのアンケート】

アンケート実施期間：平成27年6月16日～7月17日

アンケート実施方法：各市町村を通じて、老人クラブを所管する部署（社会福祉協議会等）に依頼し、アンケートに協力可能と回答のあった市町村にアンケートを送付して実施

アンケート回収者：653名（名古屋市はじめ38市町村）

(年齢内訳)

60～64歳：8名

65～69歳：45名

70～74歳：201名

75～79歳：233名

80～84歳：112名

85～89歳：21名

90～94歳：3名

年齢不詳：30名

(性別内訳)

男性：482名

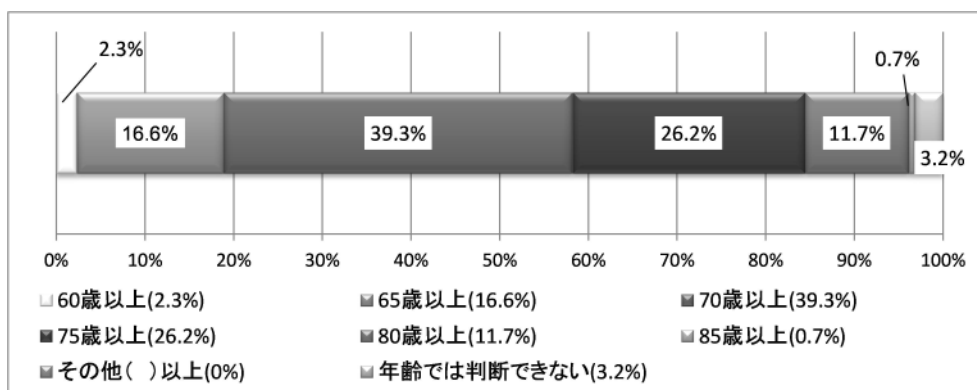
女性：143名

不詳：28名

653名

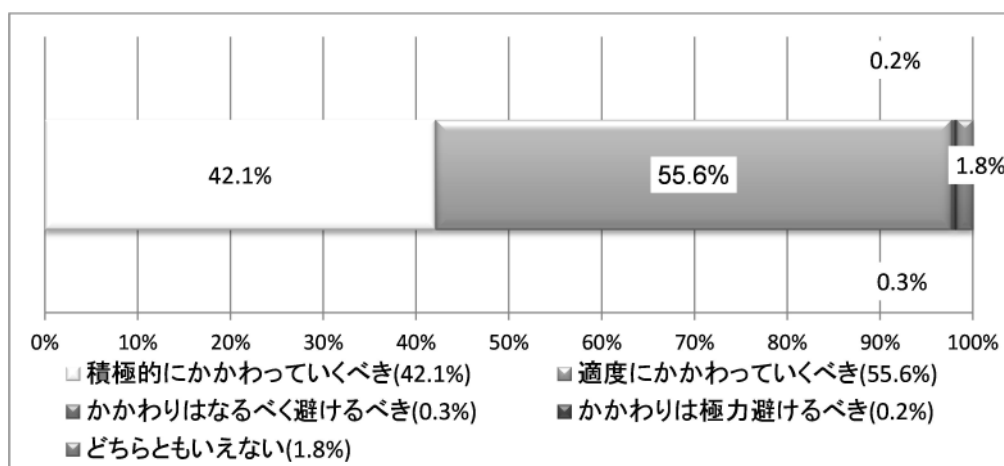
653名（平均75.7歳）

○ あなたは、一般的に高齢者とは、何歳以上だと思いますか。(○は一つ)



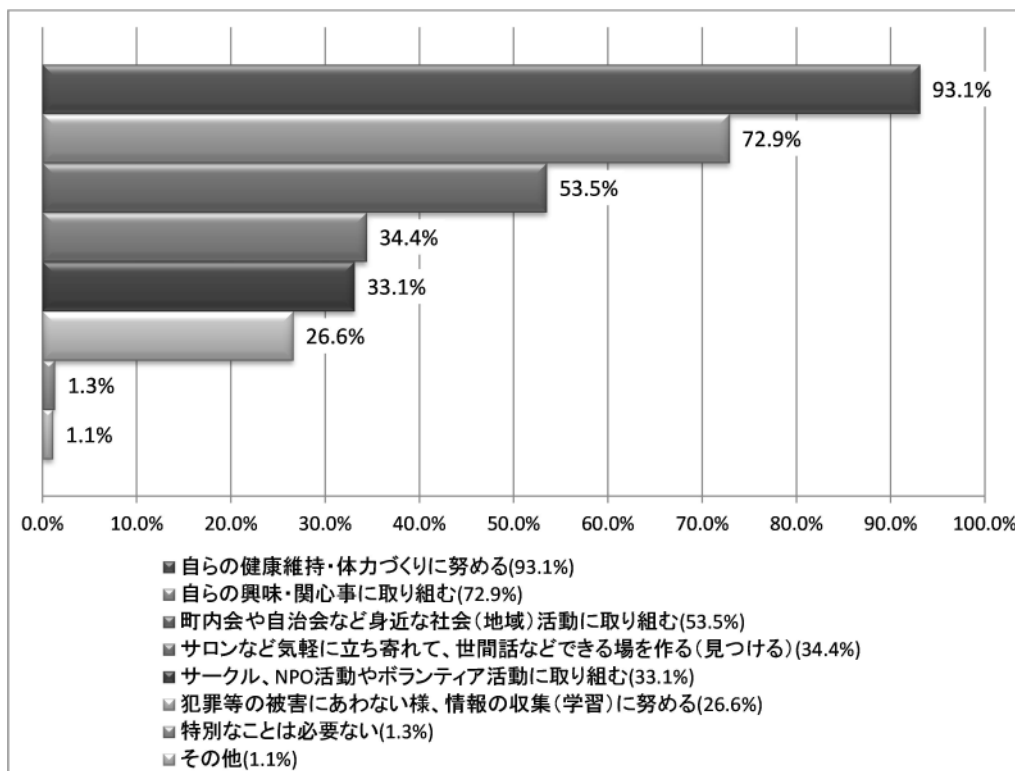
あいちシルバーカレッジ受講者および老人クラブ加入者（以下「調査実施高齢者」とする。）に対して行ったアンケートでは、「70歳以上」（39.3%）という回答の割合が最も多く、次いで「75歳以上」（26.2%）となっており、調査実施高齢者のうち65.5%の人が、高齢者とは「70歳代」と回答している。

○ あなたは、これからの超高齢社会に対応して、社会（地域）とどのようにかかわっていきべきだと思いますか。(○は一つ)



調査実施高齢者のうち、「積極的にかかわっていきべき」が42.1%、「適度にかかわっていきべき」が55.6%となっており、9割以上(97.7%)の人が程度の差はあるが、社会（地域）とかかわっていきべきと考えている。

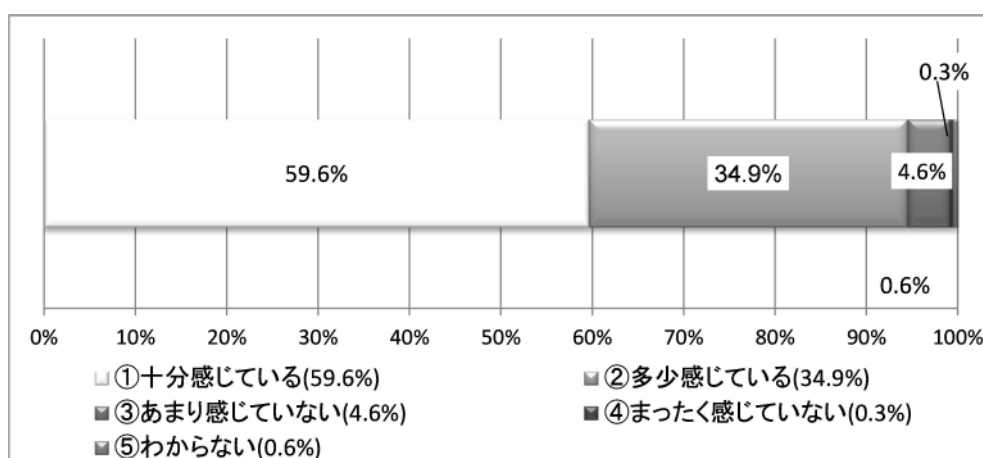
○ 今後、さらに高齢化がすすむことに備えて、あなたは、ご自分にとってどのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)



全回答者のうち、「自らの健康維持・体力づくりに努める」と回答した人が最も多く(93.1%)、次いで「自らの興味・関心事に取り組む」(72.9%)、「町内会や自治会など身近な社会(地域)活動に取り組む」(53.5%)と続いている。

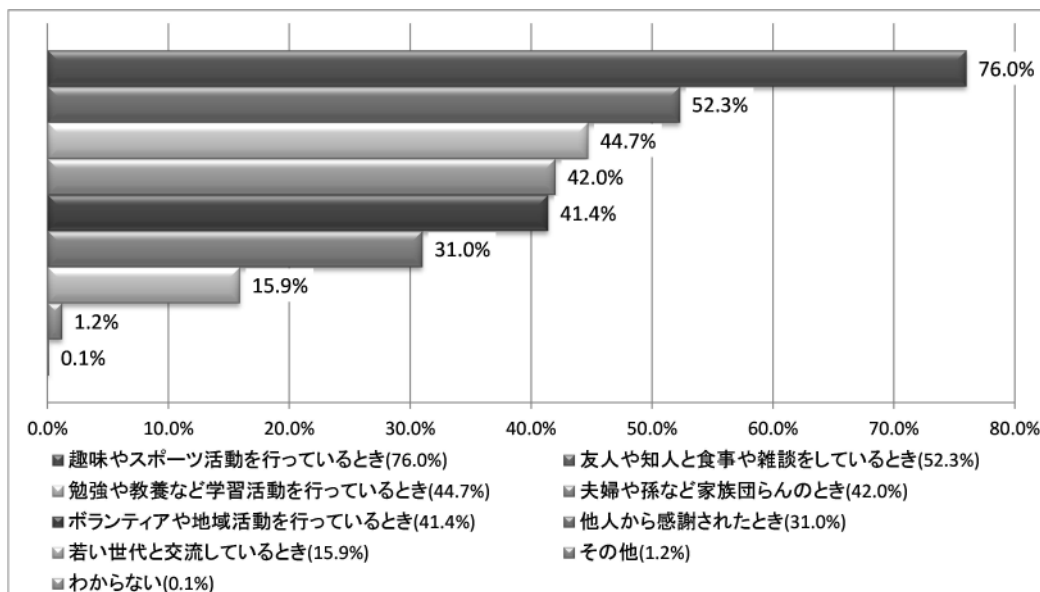
「特別なことは必要ない」と回答した人は1.3%で、ほとんどの人が、今後、高齢化がすすむことに備えて何らかの活動が必要と考えている。

○ あなたは、現在、どの程度生きがいを感じていますか。(○は一つ)



調査実施高齢者のうち、「十分感じている」が59.6%、「多少感じている」が34.9%となっており、9割以上(94.5%)の人が程度の差はあるが、生きがいを感じている。

○ あなたが生きがいを感じるのどのような時ですか。(○はいくつでも)



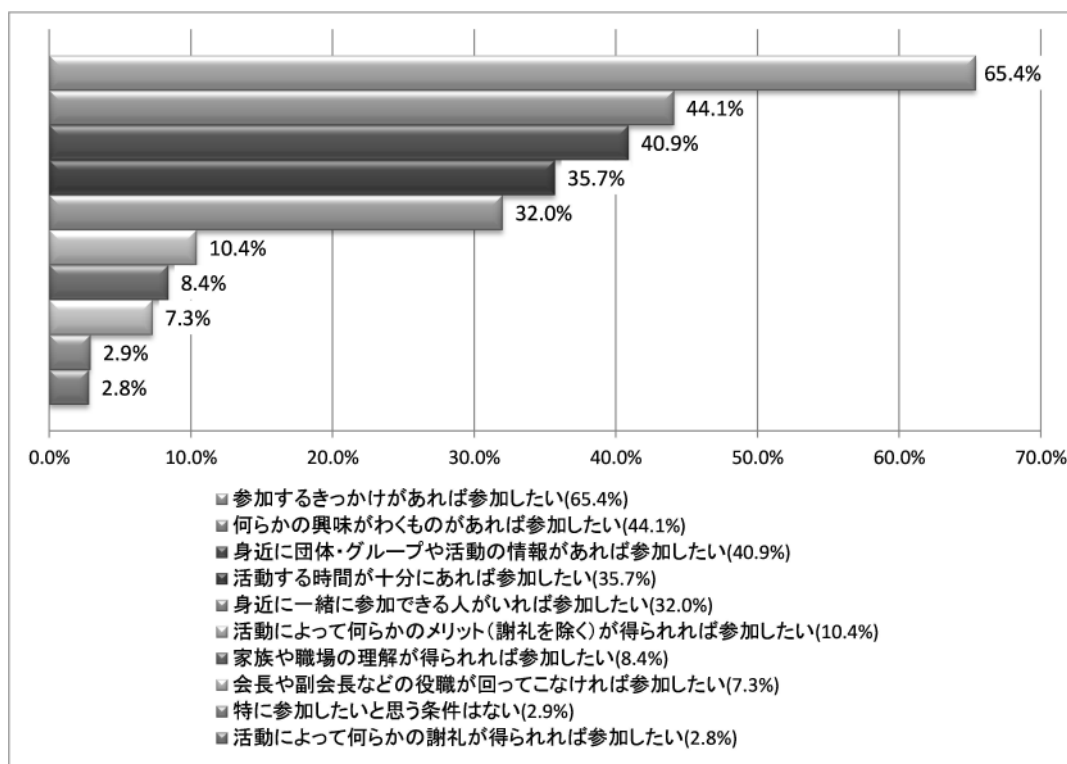
全回答者のうち、「趣味やスポーツ活動を行っているとき」と回答した人が最も多く(76.0%)、次いで「友人や知人と食事や雑談をしているとき」(52.3%)、「勉強や教養など学習活動を行っているとき」(44.7%)となっている。

○ あなたは、この1年間に、個人または友人と、あるいはグループや団体で自主的に行われている次のような活動に参加したことがありますか。(○はいくつでも)

自治会・町内会・老人クラブなどの活動	70.6%
道路・公園の清掃活動や草取りなどの共同作業	64.8%
運動会・盆踊り・お祭りなどのレクリエーション活動	51.3%
音楽・写真・学習会など、文化サークル活動	32.9%
防犯や交通安全に関わる活動	31.7%
防火や防災に関わる活動	25.7%
廃品回収や不用品の交換会などのリサイクル活動	25.1%
高齢者や障害のある方への手助けなどの活動	19.8%
野球やバレーボールなど、スポーツのサークル活動	16.2%
自然環境の保全に関わる活動	9.2%
シルバー人材センターでの活動	7.2%
子育て支援にかかわる活動	6.5%
子ども会や少年スポーツチームの指導や世話	6.0%
活動・参加したものはなし	3.2%
PTA 活動	2.8%
その他	2.2%

「自治会・町内会・老人クラブ活動など」と回答した者の割合が最も高く（70.6%）、次いで「道路・公園などの清掃活動」（64.8%）となっているが、「活動・参加したものはなし」は3.2%で、ほとんどの人がこの1年間に何らかの活動に参加している。

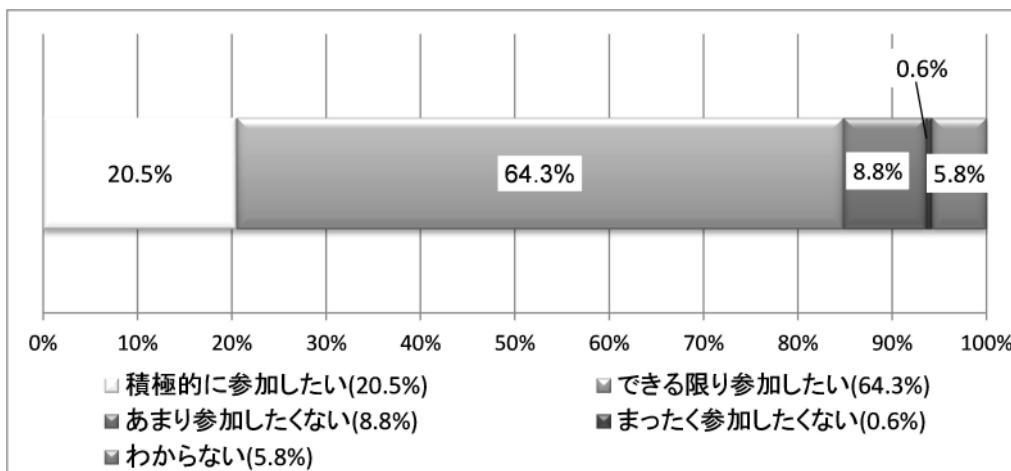
○ あなたは、どのようなこと（条件）があれば、そのような活動に参加したいと思いますか。（○はいくつでも）



「参加するきっかけがあれば参加したい。」と回答した人の割合が最も高くなっていること（65.4%）、次に「何らかの興味がわくものがあれば参加したい。」と続いていること（44.1%）から、活動への参加を得るためには、高齢者の興味をひくような何らかのきっかけづくりが必要であると考えられる。

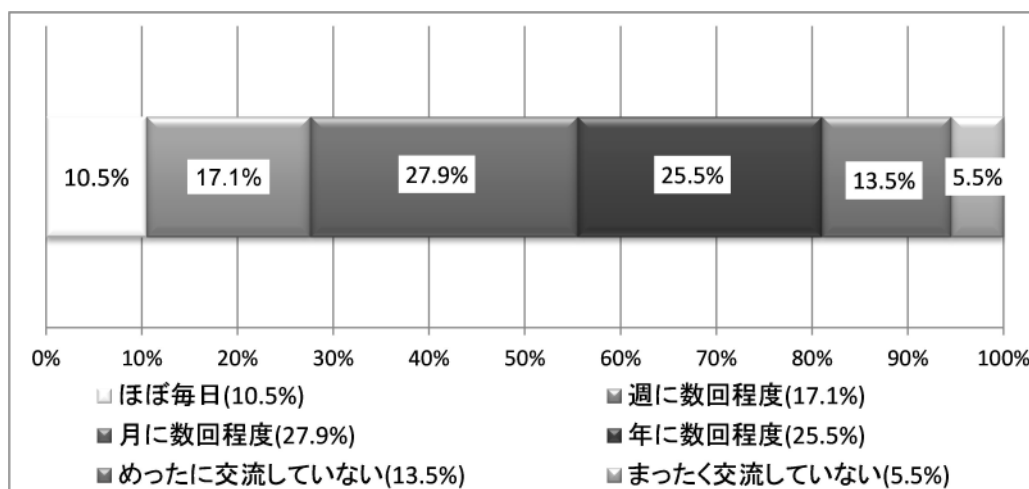
また、「活動によって何らかの謝礼が得られれば参加したい。」の割合が最も低くなっていること（2.8%）から、活動するに当たって、必ずしも謝礼は望まれていないと思われる。

○ あなたは、世代間交流についてどのように考えていますか。(○は一つ)



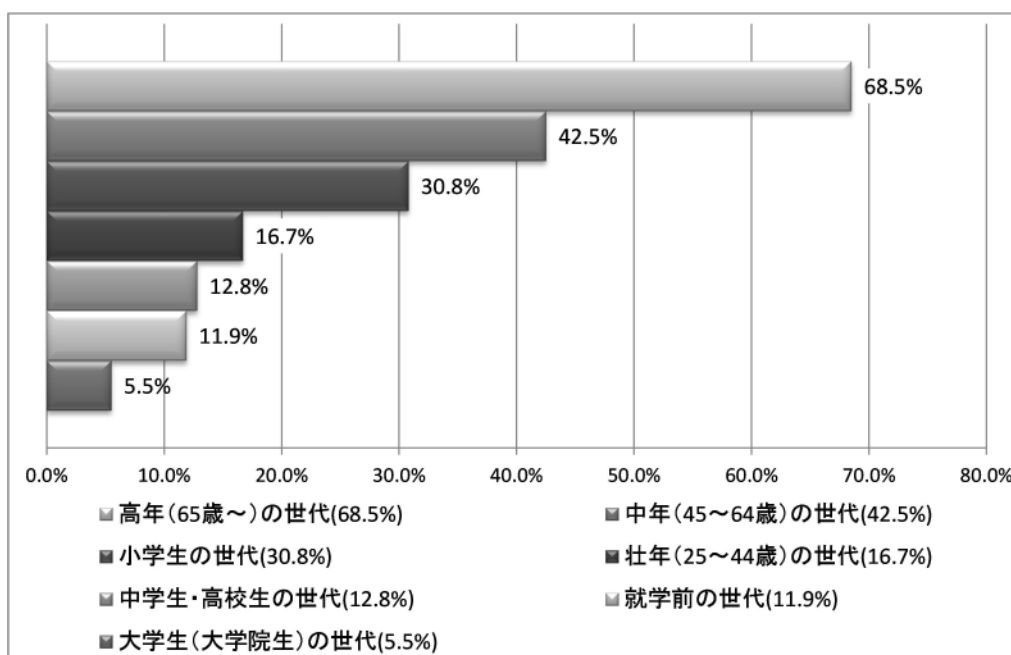
調査実施高齢者のうち、「積極的に参加したい」の割合が20.5%、「できる限り参加したい」が64.3%となっており、8割以上(84.8%)の人が程度の差はあるが、世代間交流への参加意向を有している。

○ あなたは、異なる世代と交流していますか。(○は一つ)



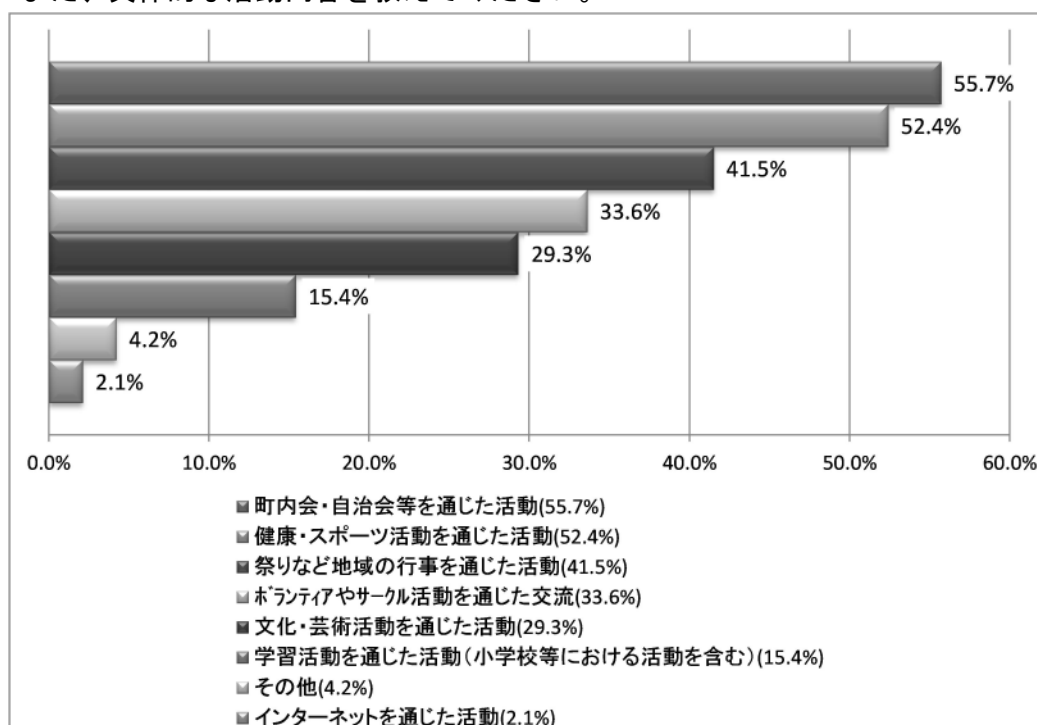
調査実施高齢者のうち、「月に数回程度」が27.9%で最も高く、次いで「年に数回程度」が25.5%となっている。「めったに交流していない」(13.5%)と「まったく交流していない」(5.5%)の合計は19%になり、およそ5人に1人がほとんど世代間の交流がない状態となっている。

- あなたは、家族以外の方との交流について、どのような世代との交流が多いですか。
(○はいくつでも)



調査実施高齢者のうち、「高年(65歳～)の世代」と回答した人の割合が68.5%で最も高く、次いで「中年(45～64歳)の世代」が42.5%となっており、比較的、自身の年齢に近い世代との交流が多くなっている。

- あなたは、異なる世代の方とどのような交流をしていますか。(○はいくつでも)
また、具体的な活動内容を教えてください。

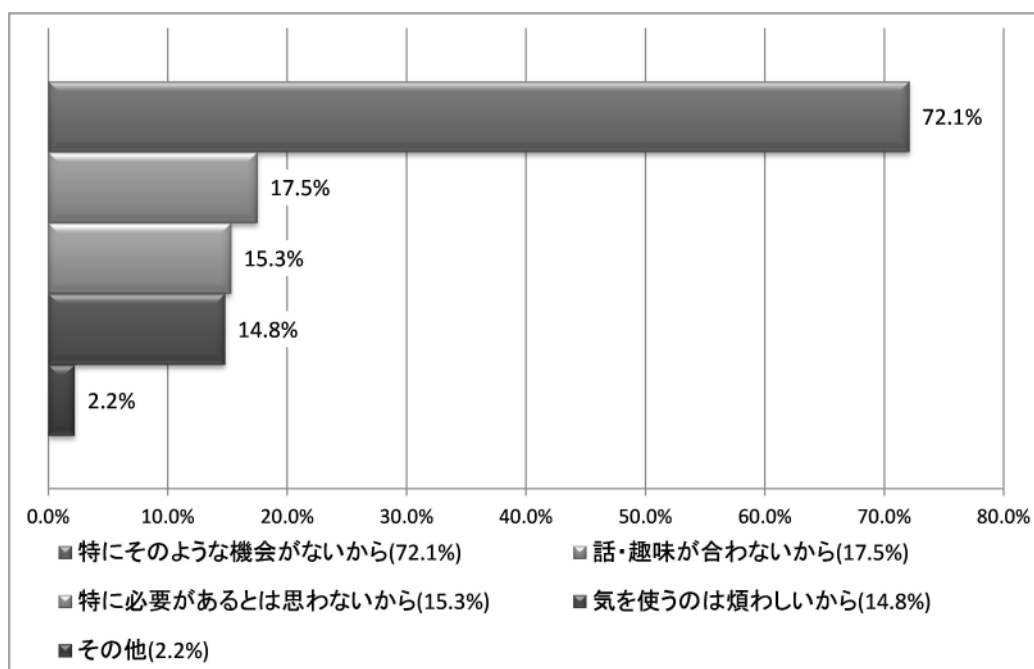


「町内会・自治会等を通じた活動」が55.7%で最も高く、次いで「健康・スポーツ活動」(52.4%)、「祭りなど地域の行事を通じた活動」(41.5%)となっており、これらの場が世代間交流の重要な場となっている。

【具体的な活動内容（自由記述）】

- ・ スポーツジムやお稽古事でのかかわり
- ・ 海のゴミ拾い活動、清掃活動
- ・ 太極拳教室、エアロビクスサークル、ヨガ、社交ダンス
- ・ NPO 法人でのボランティア活動
- ・ 児童センターでの指導員
- ・ 介護施設におけるボランティア活動
- ・ 絵本等の読み聞かせ、読書会、朗読ボランティア
- ・ ゴルフや食事会
- ・ 近所の人たちとのおしゃべり、ウォーキング、軽スポーツ、里山ハイキングの会
- ・ 地域の花壇の管理活動
- ・ 民生委員としての活動
- ・ トワイライトスクールのお手伝い
- ・ 介護及び盲人の方との交流・買物等
- ・ パソコン教室、卓球、バドミントン、絵画鑑賞、グラウンドゴルフ、カラオケ教室
- ・ 大学体育会のOB会
- ・ 子ども会、PTA 活動、子育て支援活動
- ・ 学区の連絡協議会、学区の体育祭、盆踊り
- ・ 老人会による小学生への米作り、昔遊び指導
- ・ さつまいも掘り大会、コミュニティ祭り、区民祭り
- ・ 小学校下校時の見守り隊、登下校時の交通安全活動、パトロール活動
- ・ 中学校における環境活動
- ・ 高校生のクラブ活動の支援
- ・ 三世代でのしめ縄づくり、餅つき
- ・ 体育振興会での活動
- ・ 民謡、童謡ダンス
- ・ 保育園、幼稚園での活動、保育園と老人クラブとの交流会
- ・ 小学生の家で将棋指導
- ・ 独居者への給食づくり活動
- ・ 戦争体験を語る会
- ・ 愛知県健康づくりリーダーとしての活動
- ・ 交流館での活動
- ・ 町内有志による一泊旅行

- あなたが、異なる世代の方と「交流していない」理由は何ですか。
(○はいくつでも)



全回答者のうち、「特にそのような機会がないから」の割合が72.1%で最も高くなっているが、これは世代間交流のための機会が提供されれば、世代間の交流が行われる可能性を示しているものと考えられる。

○青年の活動等に関するアンケート

【青年講座受講生へのアンケート】

アンケート実施期間：平成 27 年 7 月 16 日～7 月 24 日

アンケート実施方法：生涯学習課が主催して行う青年講座への参加者（平成 23 年度～27 年度）に対して、アンケートを郵送して実施した。

アンケート回収者：30 名

(年齢内訳)

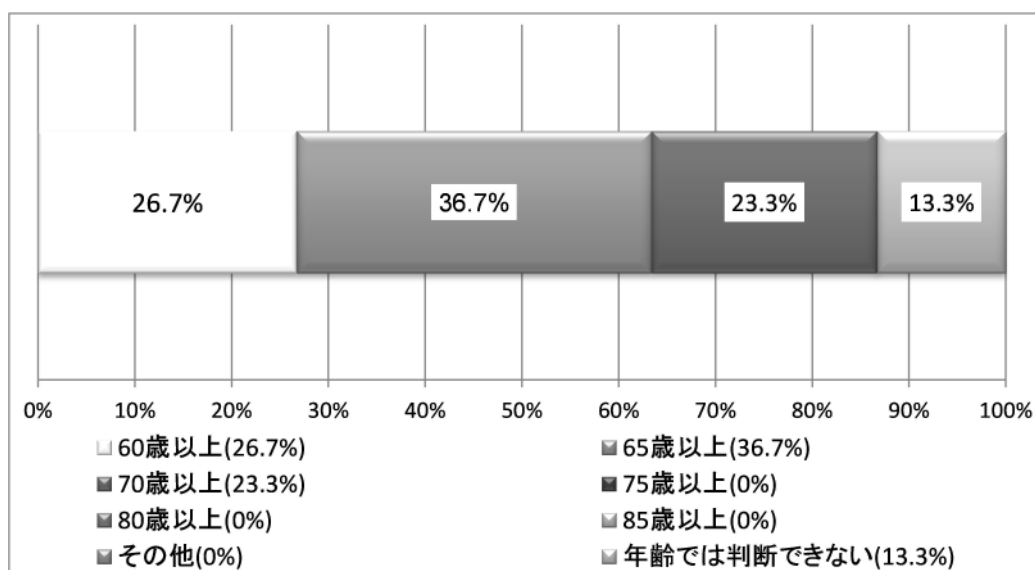
15～19 歳： 6 名	35～39 歳： 1 名
20～24 歳： 13 名	40～44 歳： 1 名
25～29 歳： 5 名	45～49 歳： 1 名
30～34 歳： 3 名	

(性別内訳)

男性： 13 名
<u>女性： 17 名</u>
30 名

30 名 (平均 25.1 歳)

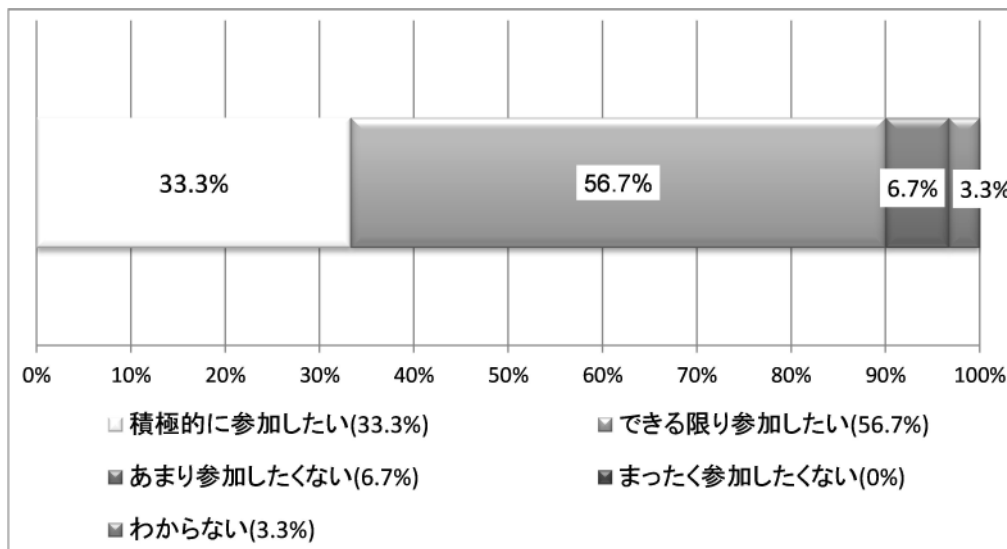
○ あなたは、一般的に高齢者とは、何歳以上だと思いますか。(○は一つ)



青年講座受講生に対して行ったアンケートでは、「65 歳以上」(36.7%) という回答の割合が最も多く、次いで「60 歳以上」(26.7%) となっており、合わせて 63.4% の人が、高齢者とは「60 歳代」と回答している。

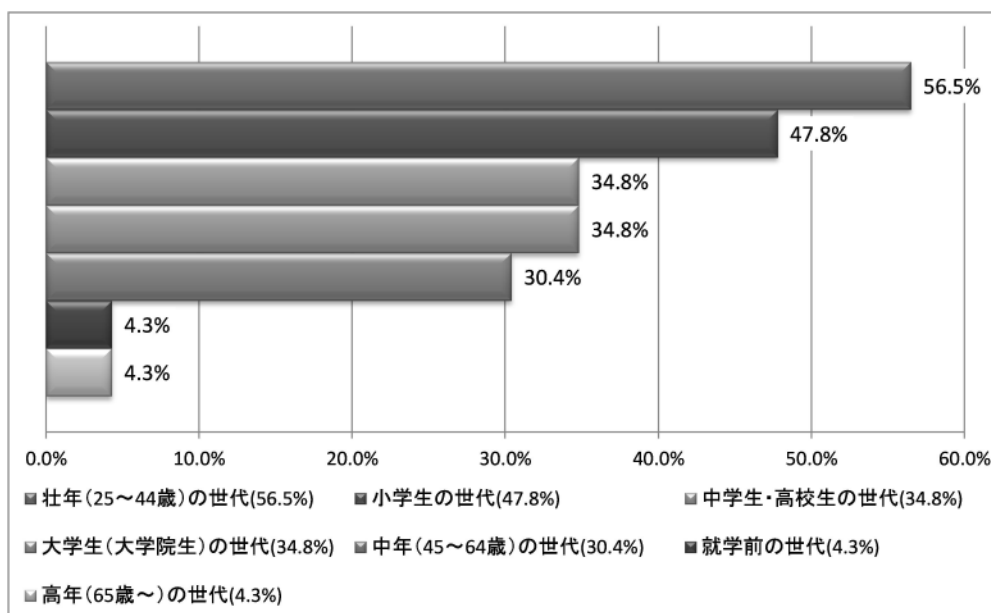
【参考】 あいちシルバーカレッジ受講者等に対して行ったアンケートでは、65.5% の人が、高齢者とは「70 歳代」と回答している。

○ あなたは、世代間交流についてどのように考えていますか。(○は一つ)



青年講座受講生のうち、「積極的に参加したい」が 33.3%、「できる限り参加したい」が 56.7%となっており、9 割 (90.0%) の人が世代間交流への参加意向を有している。
【参考】 あいちシルバーカレッジ受講者等に対して行ったアンケートでは、84.8%の人が、世代間交流への参加意向を有している。

○ あなたは、家族以外の方との交流について、どのような世代との交流が多いですか。(○はいくつでも)

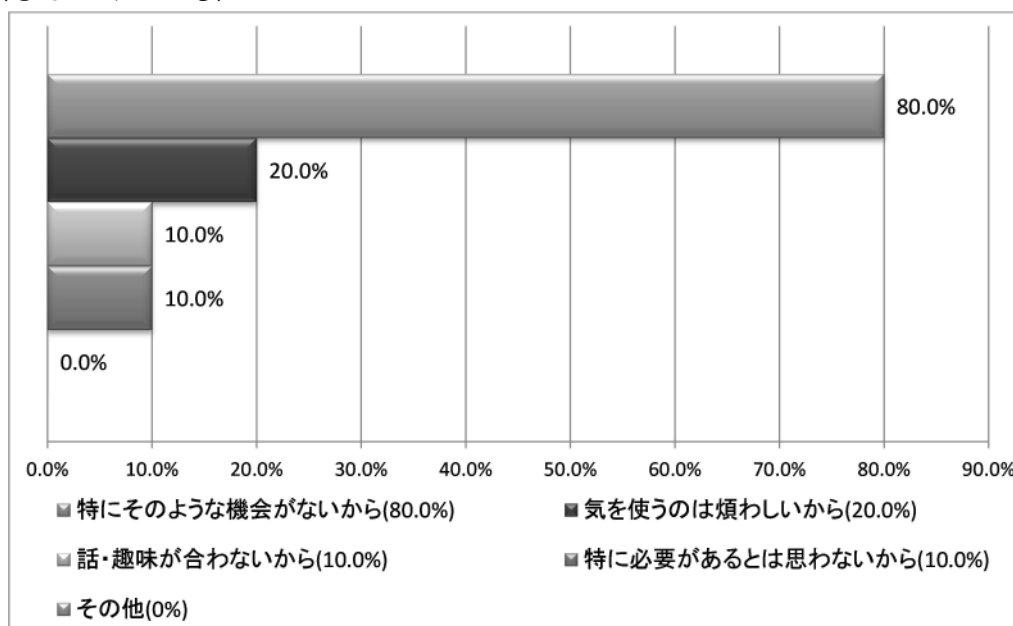


青年講座受講生のうち、「壮年(25~44歳)の世代」と回答した者の割合が 56.5%で最も高く、次いで「小学生の世代」が 47.8%となっており、比較的、自身の年齢に近い世代との交流が多くなっている。

【参考】 あいちシルバーカレッジ受講者等に対して行ったアンケートでは、「高年(65歳~)の世代」が 68.5%で最も高くなっている。

○ あなたが、異なる世代の方と「交流していない」理由は何ですか。

(○はいくつでも)



「特にそのような機会がないから」という回答者の割合が 80.0%で最も高くなっているが、これはあいちシルバーカレッジ受講者等に対して行ったアンケート同様、世代間交流のための機会が提供されれば、世代間の交流が行われる可能性を示しているものと考えられる。

【参考】 あいちシルバーカレッジ受講者等に対して行ったアンケートでは、「特にそのような機会がないから」が 72.1%で最も高くなっている。